

海岸のホネしらべ

那覇市立天久小学校
2年 岩瀬 花海

1. 目的、動機

海岸で遊んでいると、いろんなホネが落ちていることに気づくようになりました。

これまで見つけたホネが、何のホネなのか、どこからやつてきたホネなのか、どうしてそこで見つかるのか調べてみたいと思いました。



2. 方法、内容

(1) 方法

① 何のホネなのか調べる方法

- ・家にあるホネの本で調べる
- ・水族館や博物館へ持って行って標本とくらべてみる

② どこからきたホネなのか調べる方法

- ・森、山からきたホネ
- ・海からきたホネ
- ・町からきたホネ（かちく）
- ・町からきたホネ（ペット）

この4つにわけてみる。

(2) 疑問

本や標本で調べたところ、海の生き物だけではなく、かちくのホネもたくさん見つかりました。

特にとなき島で2年前にひろった5つのホネは、ウシの歯でした。

なぜ海岸にウシの歯がたくさん落ちているのか、2年後の今でもまだ見つかるのか調べてみようと思いました。



① 調査の準備

ウシの歯ということは、野生ではなくて人がすてたものだと思いました。

いつすてられたものなのかを調べるには、同じ場所でお皿のかけらも探してみるとよいとお友達のお父さんが教えてくれました。お皿のかけらを探して、そのお皿がすてられた頃に、ウシもすてられたと考えるそうです。

また、となき島の歴史民俗資料館へ行って、ウシのことを聞いてみたいと思いました。

- ・今もウシは島にいるのか
- ・ウシを海岸でお肉にしていたのか

- ・海岸にウシの歯がたくさんあるのを知っているかどうか
- ・知っていたら、なぜ落ちているのか

② となき島調査

島の歴史民俗資料館は建て替え工事のため、建物がなくなっていました。

インタビューはあきらめて、同じ海岸を再調査しました。

ウシの歯… 12コ

ヤギの歯… 1コ

今回の調査で見つけることができました。



民宿の人に質問して教えてもらったこと

- ・海岸にウシの歯があることは知らなかった。
- ・今は島にウシはない。(昔は飼っていたけれど、病気の予防のため飼わなくなつたそうです)

③ となき島まとめ

一緒に拾ったお皿のかけらの1つが、博物館に展示してあるものと同じでした。

今から約70年前のお皿だったので、ウシも今から70年前のものかもしれないことがわかりました。



3. 結果

どこからきたホネ？（）はホネの数

- ・森、山からきたもの…なし
- ・海からきたもの…ウミガメ（10）、イルカ（1）、魚（4）、カニ（1）
- ・町からきたもの（ペット）…ネコ（1）
- ・町からきたもの（かちく）…ウシ（18）、ブタ（6）、ウマ（1）、ヤギ（4）

4. まとめ

① 町からきたホネについて

ブタもウシもヤギも、海岸でバーベキューをしたらすてられることもあるかもしれないと思ったのですが、調べてみたら、バーベキューで食べる部分のホネは1つもなくて、家のお料理では見たことがないホネばかりでした。

じゃあ、どうしてそんなホネが落ちているんだろうと思いました。

ヤギは海岸でころして食べることがあると聞きました。だから、食べるのに必要なない部分だけ、海にすてて帰るのかもしれないと思いました。

となき島のウシの歯は、今から70年前のものかもしれないとわかりました。

昔はゴミをする場所が作られていなくて、海にすてていたのかも知れないと思いました。他の場所で見つけた、たくさんのブタのホネも、もしかしたらまだゴミをする場所が作られていなかった頃の、古いブタさんなのかも知れません。

今回調べたいろんな海岸には、魚のホネもたくさん落ちていました。貝がらもたくさん落ちていました。だれかが食べるところだけ持って帰って、いらないところをすてたのかもしれません。家で食べたあと、貝がらやホネだけ返しにきているのかもしれません。

だから、魚のホネも、自然に海からながれてきたものではないかも知れないと思いました。

② ホネとゴミのもんかい

ホネとゴミのことを考えると、どこからどこまでがゴミなのか、よくわからなくなつてきました。そこで、ゴミかゴミじゃないのか、どうしてそこにやってきたのか想像しながら私の考えをまとめてみることにしました。

魚のホネ

- ・海で死んで流れてきた…ゴミじゃない
- ・つかまえて食べたあと、海にすてた…ゴミ

ウシの歯

- ・昔の人がウシを食べて、ゴミすて場がなくて海岸にうめた…ゴミ
- ・昔の人が船で生きたウシを運ぶとちゅう、船がしずんで流れついた…ゴミじゃない

イヌやネコのホネ

- ・家で飼っていて死んだので、海岸にうめた…ゴミじゃない
- ・家で飼っていて死んだので、海にすてた…ゴミ
- ・家で飼っていたけど逃げて、海岸で死んだ…ゴミじゃない

どこまでがゴミで、どこまでがゴミじゃないのか、分けるのがとても難しいとわかりました。

人間が、どういう気持ちでそこにうめたり、もってきたりしたのかでゴミかどうかが決まるのかもしれませんと思いました。

人間が大切に思って海にかえしたものはゴミじゃないと思います。でも、生きている他の生き物のことを考えて、海にもっていかないと決めるのが一番良いと思いました。これからも海岸でたくさんホネを見つけて、どこからやってきたのか、どうしてやってきたのか考えてみたいと思います。ホネはたくさん見つけたいけれど、海から自然に流れてきたホネがもっとたくさん見つかって、町からきた新しいホネが増えなければいいなと思います。

5. 参考書籍

動物考古学 松井章 (2008)、食べて始まる食卓のホネ 探検ゲッチョ先生のホネコレクション 盛口満 (2014)、ホネで学ぶ、ホネで楽しむ 大阪市立自然史博物館 (2009)、ホネホネたんけんたい 西澤真樹子 (2008)、雑誌「このは」No. 8 ホネホネ博物館 (2014)、歯の比較解剖学第2版 石山巳喜夫他 (2014)、鎌倉の馬の骨 芝田英行 (2008)、学べる！頭骨図鑑 吉田賢治 (2014)

・今年度研究成果の発表の記録

- 第53回 那覇地区科学作品展 金賞
- 第56回 沖縄県科学賞作品展 最優秀賞（環境部門）
- 第39回 沖縄青少年科学作品展 出品予定